

2022年2月吉日

総合内科専門医と総合診療専門医のダブルボードを考えている先生方へ

医仁会武田総合病院 総合診療科

総合内科専門医と総合診療専門医の二つを取得したいと思っている先生方に向けて、両者のダブルボードが2021年9月17日に日本専門医機構によって認められました。

これにより、従来であれば内科専門研修3年、総合診療専門研修3年の合計6年の研修が必要となる可能性があったところ、両者の専門研修の相互乗り入れが認められ、2つ目の資格取得の研修期間が大幅に短縮されることになりました。

<https://jmsb.box.com/s/whsyy11spcmng1xbxljet3fatwamc3aw>

特に当院は、内科専門研修プログラムの施設かつ総合診療専門研修プログラムにおける総合診療Ⅱの施設として認められた医療機関であり、かつ、内科学会指導医と日本専門医機構認定総合診療(特任)指導医の両方の資格を有する指導医(デュアル指導医)が2名在籍しており、さらに「内科専門研修」および「総合診療専門研修における総合診療Ⅱ分野研修」としてダブルカウント可能な研修が実施可能であるため、いずれの専門研修を先に行っても**1年間の追加研修**にてダブルボードの取得が可能となります。

<https://jmsb.app.box.com/s/08ytoge02i7s5oc37cec2k29sxfmf054>

また、ダブルボードの研修についてはカリキュラム制となるため、非フルタイム(週8時間以上32時間未満の勤務時間)であっても、ダブルボードの取得(2つ目の専門研修)が可能となり、1つ目の専門研修の開始から受験申請年まで、最長10年間の間に必要な単位を揃えれば取得することが可能となります(この場合も当院であればダブルカウントが可能のため、最低限の必要な単位数にて取得が可能です)。

ダブルボードカリキュラム制による研修開始のためには、2つ目の専門研修プログラムの応募の際に、「ダブルボードによる研修」として新規登録することが必要です(例外的に、2つ目の専門研修を従来のプログラム制で開始した場合であっても、別途申請書・理由書等を記載することで変更が認められる可能性があります)。

私たちは内科にも総合診療にも興味を持たれる先生方が、当院で双方のダブルボード取得を目指されることを大歓迎いたします。

是非、一度、当院の専門研修プログラムについてご相談ください。

具体例1：当院の内科専門研修を先に履修して、その後総合診療専門研修を行う場合
 (最短で研修する場合)

専門研修	研修年度	研修内容		
総合内科 専門研修	専門研修1年目	当院で内科全体研修（総合診療専門研修の内科研修 12カ月間のダブルカウント）		
	専門研修2年目	天理よろづ病院、滋賀県立総合病院、島田市立総合医療センターおよび宮津武田病院で地域医療研修		
	専門研修3年目	当院総合診療科での研修（総合診療専門研修Ⅱ 12カ月間のダブルカウント研修）		
総合診療 専門研修	専門研修4年目	地域または過疎地にて 総合診療Ⅰ研修6カ月間	小児科 3カ月	救急 3か月間

具体例2：当院の総合診療専門研修を先に履修して、その後内科専門研修を行う場合
 (最短で研修する場合)

専門研修	研修年度	研修内容		
総合診療 専門研修	専門研修1年目	当院総診3カ月 (総合診療Ⅱ)	当院で内科6カ月 (総合内科専門研修とのWカウント)	小児科 3カ月
	専門研修2年目	救急 3カ月	京都中部総合医療センターで内科6カ月 (総合内科専門研修とのWカウント)	地域医療 (総合診療Ⅰ)
	専門研修3年目	地域医療 (総合診療Ⅰ)	開業医研修6カ月 (総合診療Ⅰ)	総診3カ月 (総合診療Ⅱ)
総合内科 専門研修	専門研修4年目	内科領域12カ月間 (詳細は未発表)		

内容は、現時点で公表されたものを踏まえて作成しており、今後、変更となる可能性があります。

詳細は日本専門医機構 総合診療専門検討委員会ホームページや当院ホームページの新専門医募集案内をご参照ください。